

元来、標準化という概念は工業分野において製品の品質・形状・寸法を統一して互換性を高めること（画一化）や、生産性を向上させること（効率化）を目的として発展したものです。近年、この標準化という言葉が、医療分野でも頻繁に使われるようになりました。おそらくクリニカルパスの導入がそのきっかけの一つであったと思います。2000年頃のことです。しかし、人間の形状（解剖）や機能（生理）は、工業製品のように寸分違わぬほど極めて画一的ではありません。そのため、その当時、標準化という概念を医療分野に持ち込むにあたって、個への対応に関するジレンマに困惑する人や、効率化を求めるあまりに安全性が損なわれることを危惧する人が少なくありませんでした。

鏡視下手術では、術者が見ている術野を誰もが共有することができます。そのため、近年の鏡視下手術の発展とともに、手術手技を統一して互換性を高める作業、すなわち手技の標準化が急速に進んでいます。ただし、これは画一化ではありません。そもそも工業分野における標準化とはプロセスが異なります。手術手技の標準化は、まず複数の患者から普遍性のある解剖構造や病態を見出すこと、すなわち画一的ではないものから共通点を見出すことから始まります。次に、繰り返し安全で迅速かつ効率よく実施できる手術手技を選択したり新たに考案したりして、可能な限り統一して標準手技を確立します。ここで重要なのは、手術を受ける複数の患者に一定以上の普遍的要素があることです。これは、手術手技を標準化するには、同時に適応基準を明確にする作業も必要であることを示しています。標準化によって得られる効率化が独り歩きして、適応外の患者にまで標準化した手術が行われ、安全性が低下したり患者の利益が損なわれるようなことがあってはなりません。

手技を標準化すること、そして患者の安全と利益を最優先にした適応基準を明確に設定すること、それが academic surgeon の仕事です。さらに、その内容は言語化されて多くの議論を経たのちに一般化されなければなりません。私は編集委員としての5年の任期を終えますが、これからも本邦の有能な外科医の皆さんが洗練された手術手技を世に示して世界をリードするために、本誌が大いに活用されることを期待しています。

(本田五郎)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第26巻 第3号) 2021年5月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 価格: 3,080 円 (本体 2,800 円 + 税 10%)

2021年 年間購読料: 18,018 円 (税込) * 学会員は学会ホームページから閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 坂井義治)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1257 E-mail: info-jses@convention.co.jp (担当: 池田, 平澤, 渡部)

<http://www.jses.or.jp>

発売: (株)医学書院 (代表: 金原 俊) (本誌担当: 高島, 安部)

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

電子出版コード 260F2600026003000000

- ・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・貸与権・公衆送信権 (送信可能化権を含む) は日本内視鏡外科学会が保有します。
- ・本誌を無断で複製する行為は、「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学、病院、診療所、企業などにおいて、業務上使用する目的 (診療、研究活動を含む) で上記の行為を行うことは、その使用範囲が内部的であっても、私的使用には該当せず、違法です。また私的使用に該当する場合であっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。
- ・JCOPY (株) 出版者著作権管理機構 委託出版物) 本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(株) 出版者著作権管理機構 (電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, info@jcopy.or.jp) の許諾を得てください。

●原著

Veress needle (気腹針) を用いた高度肥満症に対する腹腔鏡下

スリープ状胃切除の手法と安全性に関する検討 畑尾史彦・他 東京都立多摩総合医療センター外科

●症例報告

S 状結腸憩室炎穿痛による直腸間膜膿瘍に対し超音波内視鏡下経直腸的

ドレナージ後に鏡視下手術を施行した 1 例 阿見勝也・他 製鉄記念広島病院外科

子宮平滑筋肉腫腓転移に対して腹腔鏡下脾温存尾側膵切除術を

施行した 1 例 清水 貴・他 神戸大学大学院医学研究科外科学講座肝胆膵外科学分野

腹腔鏡補助下括約筋間直腸切除術後の直腸脱再発に対して腹腔鏡下直腸固定術を

施行した 1 例 銭谷成剛・他 大阪警察病院一般外科

ロボット支援下に仙骨腔固定術と直腸挙上固定術を同時に行った

骨盤臓器脱合併直腸脱の 1 例 楠元英次・他 九州医療センター消化管外科・臨床研究センター

3 D-CT angiography が腹腔鏡手術に有用であった腸回転異常を

伴う盲腸癌の 1 例 直井大志・他 自治医科大学消化器一般移植外科

上腸間膜動脈症候群に対する腹腔鏡下十二指腸空腸吻合術においてトロッカー

配置の工夫を行った 1 例 川北航平・他 済生会松阪総合病院外科

腸間膜デスマイド型線維腫症に対し腹腔鏡下に摘出した 1 例 中村 淳・他 社会医療法人祐愛会織田病院外科

盲腸壊死に対して腹腔鏡下回盲部切除術を行った 1 例 鄧 傑之・他 近畿中央病院外科

●私の工夫

腹腔鏡下胆嚢摘出術における効率的手術室運営 渡邊 学・他 東邦大学医療センター大橋病院外科

心嚢液貯留に対する胸腔鏡下心膜開窓術の工夫 西川仁士・他 津山中央病院外科

誌面の都合により変更がある場合があります。あらかじめご諒承ください。